

## 津田塾大学「世代連携・理文融合による女性研究者支援」

津田塾大学は明治 33 年(1900 年)、津田梅子によりわが国初の女子高等教育機関の一つである「女子英学塾」として誕生した。以来、「津田英学塾」「津田塾専門学校」と変遷を重ねながら、昭和 23 年(1948 年)に学制改革と同時に「津田塾大学」へと発展し、本年、創立 113 周年を迎えた。本学は all-round women の養成(全人教育)という創立者の先覚的で高い理想に基づき、学生の個性を重んじる少人数教育と高度な教育研究を積み重ね、2 万 8 千人を超える有為の女性を社会の各分野に送り出してきた。理系教育は、戦前の理科の増設(1943 年)以来、約 70 年の歴史を積み重ね、平成 18 年には数学科と情報科学科を開設して現在に至っている。これまでに数学教員や主として情報関連産業界で活躍する人材、数学、情報科学の関連分野の研究者を輩出してきている。本学は、平成 20 年 7 月に「女性研究者支援センター」を設立し、既存の組織である保育所、研究所、大学院、学部、同窓会などと連携し、女性研究者が出産・育児や介護等に直面したときの相談窓口となるとともに、世代連携と理文融合を両輪として、取り組み終了後の平成 23 年度から現在に至るまで、次世代研究者を育成するための様々な活動を展開している。以下、それぞれの活動についての概要を記す。

まず、「世代連携」においては、次世代研究者を 3 世代(中学・高校生、大学生、大学院生を含む若手研究者)に分けて、各世代の特徴に合わせた支援を行いながら世代間の交流をはかっている。中高生に対しては、女性研究者の裾野を広げるために理系学科への進学者を支援する活動を行っている。具体的には、平成 21 年、平成 22 年 8 月に全国から公募した女子高校生を対象とした「夏の合宿」、平成 23 年 8 月には JST の女子中高生の理系進路選択支援事業として「女子中高生のための情報・メディア工房」を開催した。平成 24~26 年度は、独自予算と、産業界からの協力などによって、「女子中高生のための情報メディア工房」を開催した。企業見学、女性技術者・研究者との懇談、最先端の技術を利用しながらのプログラミング入門実習を一日にまとめたイベントにより、中高生に情報科学分野の魅力を伝えることができた。イベント参加者のうち毎年数人が本学に入学しており、平成 26 年度も 3 名が本学理系学科に進学した。また、若手研究者に対しては、メンター制度により、指導教員に加えて、メンターとも在学期間を超えた長期のキャリアパスの相談ができる体制を導入している。大学院生や学部生の学会活動も活発に行われ、投稿論文が国際会議や論文誌に採択されたほか、大学院生が 2014Google アニタボルグ奨学金アジアを獲得する成果をあげた。

一方、「理文融合」では、近年学際化が進んでいる情報科学分野を中心に学部の初期段階より理系・文系双方の考え方や講義内容に触れる機会を増やすことで、学際分野を含めた研究が活性化し、結果として研究者を志す学生が増えるような環境づくりを目指している。平成 26 年度より、新たに正課の科目として「知的財産概論」を開講した。

また、取り組み期間中に開催した国際シンポジウムや海外の事例調査を通じて、学生が早い時期から海外で女性研究者と触れあう重要性を認識し、女性情報科学者のためのイベント「グレースホッパー会議 Grace Hopper Celebration for Women in Computing」への参加を継続的に大学院生に奨励している。

このほか、平成 26 年 9 月には、日本大学、東京都市大学、ドイツ研究振興協会(DFG)日本代表部とともに国際シンポジウムを主催するなど、引き続き各機関との連携を進めている。

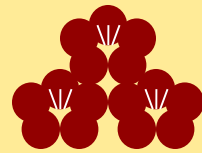
---

【連絡先】津田塾大学 女性研究者支援センター

TEL/FAX: 042-342-5142 E-mail: jks2008@tsuda.ac.jp

URL: <http://cwr.tsuda.ac.jp>

## 世代連携・理文融合による 女性研究者支援



津田塾大学女性研究者支援センターでは、出産・育児を抱える女性研究者をさらに積極的に支援しつつ、世代連携と理文融合を両輪として、次世代研究者を育成していきます。

### 津田塾大学 世代連携・理文融合による女性研究者支援の実施内容

#### ミッションステートメント

- 出産等を原因とする女性研究者の不振本意「研究活動の中断または中止」を顕著にする。
- 大学院進学率を情報科学科で25%にする。
- 文系学科から理系及び理文融合分野の大学院進学を目指す学生を毎年5人育成する。
- 情報通信分野の専門職に就く割合を16.3%程度までに増加させる。
- 学部生、大学院生による学会発表件数を年10件以上に上げる。
- 理系学科の女性教員比率を33.3%に近づける。
- シンポジウム(年2回)、ワークショップ(年1回)を実施する。

#### 女性研究者支援センターの設置

##### 充実した研究支援環境の提供

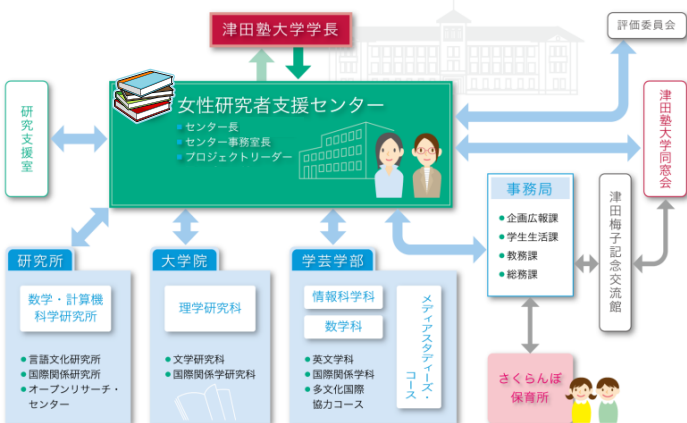
- 更なる保育サービスの充実
- 在宅勤務可能な環境の提供
- 代替委員、研究支援員の手配、サポート
- メンター制度の導入

##### 理文融合プログラムの推進

- 文系学生対象の理系講義科目の設置
- 学際領域研究活動の積極的な展開
- ロールモデルの提示
- 国際的に活躍できる研究者の輩出



### 津田塾大学 世代連携・理文融合による女性研究者支援の実施体制



## 世代連携プロジェクト

### 「女子中高生のための情報・メディア工房2014」開催

津田塾大学150周年記念事業の一環として、情報科学科と共催で「女子中高生のための情報・メディア工房2014」を開催しました。このイベントは女子中高生に情報・メディア分野の魅力を伝え、同分野への進路選択を促すことを目的としており、この形式での開催は今年で4年目です。今回も全国から定員を大きく越える応募があり、抽選で選ばれた中学1年生～高校3年生の31名が参加しました。

8/26は午前中に株式会社サイバーエージェントを訪問し、オフィス見学後、女性社員の方とのソーシャルゲームデザイン・ワークショップを体験しました。午後は、株式会社アーテックが開発したマイコンボードを活用したロボットプログラミングを体験しました。

8/27午前中には、日本マイクロソフト株式会社を訪問し、女性社員の方からIT企業での仕事などのお話を伺い、オフィス見学をしました。午後は、学研大人の科学より発売された「ポケットミク」という音声合成ハードウェアに指令を出し、曲を歌わせるプログラミングを体験しました。

午後のワークショップは、両日とも、NPO法人CANVASによるプログラミング学習普及プロジェクト「PEG」の支援を受けました。参加者からは「理系に進む気持ちが強くなった」「理系の進路についてのイメージが今回のイベントのおかげでわいてきた」といった感想がありました。本イベントの様子は <http://rikei.tsuda.ac.jp/> で公開しています。



### 「Grace Hopper Celebration for Women in Computing 2014 ポスター発表



発表用ポスター(左)と会場の様子(右)

10月にアメリカ合衆国フェニックスで開催された、女性の情報系技術者のためのグレースホッパー国際会議(GHC)に教員1名が参加し、情報メディア工房をはじめ、女子学生に魅力的な情報教育を目指す、津田塾大学の活動についてGeneral Poster Sessionで研究発表を行いました。この会議は、女性技術者のためのイベントとしては世界最大のイベントで、今年の参加者は8000名を越えています。津田塾大学女性研究者支援センターでは2009年度より毎年同会議に参加し、ネットワーキングを広げています。  
GHC2014: <http://gracehopper.org/2014/>

## 理文融合プロジェクト

### 理文融合科目を開講

理文融合科目は、理系的・文系的の視点を持ち合わせた柔軟性高い学生やICT分野の研究者を目指す学生の輩出を目指して設けられた科目です。2014年度は、情報科学科正課科目として「知的財産概論」を開講しました。

### 科学技術振興調整費「女性研究者支援モデル育成」事業終了後の取り組みについて

女性研究者支援の中核を担うべく、引き続き「女性研究者支援センター」を運営するとともに、「女性研究者支援モデル育成」事業での実績を活用し、取組の中でもより効果的であった以下の項目も継続しています。

- テレビ会議システムの活用による女性研究者支援
- メンター定期相談窓口の実施、メンターの紹介